

「だれかが聴いて、寄り添って始めて、音楽は命をもつんです」—— 千住 明



Akira Senju

千住 明

1960年東京生まれ。東京藝術大学作曲科卒業。同大学院首席修了。代表作にオペラ「万葉集」「滝の白糸」等。ドラマ、テレビ、映画、アニメ、CM等多くの音楽も担当。受賞歴多数。NHK「日曜美術館」のキャスターもつとめた。東京藝大特任教授。

URL: <http://www.akirasenju.com>

千住 千住 だれかが聴いて、寄り添って始めて、音楽は命をもつんです。これは、音楽が命をもつんです。これまでに経験を生かして、歌に関わる皆さんに寄り添える音楽をつくりたいと思います。

市立 私、キャリアのほとんどが演奏家としての仕事でした。ソプラノ歌手・オペラ歌手として、自分を見つめ続けてきました。5年前、少し仕事のスタンスを変えようと思っていました頃、千住さん作曲のオペラ「万葉集」の合唱指導依頼を受けました。この仕事以降、自分の合唱団を立ち上げたり、後進の指導をしたりしています。合

千住 千住さんの言われる「聴いてもらう音楽」を「聴いてもらう響きあい」にして、私なりに関わっていったらうれしい、楽しいと

市立 丹波市は、音楽と繋がりが深く、歌が根付き、発展する素地があると思います。柏原高校（旧制柏原中学校）は、兵庫県下で初めて音楽を正課としました。初の音楽教師として「旅愁」で有名な音楽家、犬童球溪が赴任した学校でもあります。また、音楽で地域を盛り上げる「シニユーベルティアードたんば」内の街角コンサート

「気持ちよく歌えて、1人でも、みんなでも楽しめる歌が理想です」—— 足立さつき



Satsuki Adachi

足立 さつき

丹波市出身。ソプラノ歌手。今年デビュー30周年を迎えた。演奏家としての活動の傍ら、5年前から合唱指導者として活動を開始。2年前、女声合唱団「Coro di maggio（コーロ・ディ・マッジョ）」を立ち上げ。指導のため、月1回から2回東京と丹波を行き来している。

理想の丹波市の歌

足立 今回、先行して曲を作り、歌詞を全国公募しますよね。これは、丹波市を知ってもらおう、よい機会になると思います。市の歌でありながら全国の人に知られ、歌われ、広がって「これ、丹波市の歌だったのか」とみんなが気がつく。そんなふうな成長する曲になればいいなと野望を抱いています。

でも、みんなでも楽しめる歌が理想です。そして、囁めば囁むほど味がでる曲だといいですね。合唱曲であれば、だれもがわかる程度練習すれば響き合える。しかし「できたから終わり」ではなくて、練習する度に新しい発見があって、また次も歌いたいと思う、取り組みがいのある曲というか、すみません。どんどんハードルが上がります。

心に寄り添う音楽をつくる

千住 クラシックを中心に、大河ドラマやアニメの映像音楽、J-POPなど、様々なジャンルの作品を手がけてきました。プロとして、みなさんに寄り添える音楽を

丹波市のエネルギーを感じて

千住 初めて来たので、柏原駅まで、電車の窓から景色を見ていたんです。近づくともにも緑が濃くなつて、魂も濃くなつていくような、長い長い人の魂のようなものを感じました。丹波という地域は、古くから歴史にその名が登場します。音楽も、古来より人から人へバトンを渡して繋がってききました。ここは、同じように文化を守ってきた土地なのだと感じます。今日は雨が降っているのですが、土地から走るエネルギーのようなものを繊細に感じます。自然にほっとするというか、しつくりきます。

足立 私は、丹波市に18歳まで住んでいて、東京に出ました。一昨年、合唱団を立ち上げたので、月1回から2回、帰っています。昔より戻ってくる人が多くなつたので、一度外に出た人間として、改めて丹波市を見ています。歌制作をはじめ、市長が代わられてから、これまで以上にアクションが起きていると感じます。

市長 ありがとうございます。
足立 ここは山に囲まれていることもあり、音楽について言えば、



「東京オリンピックの年に紅白歌合戦で歌われるような歌にする」——谷口 進一

刺激が少ないように感じます。刺激は、人とのコミュニケーションがもたらすものだと思っています。例えば、私とコミュニケーションをとると音楽的な知識や経験という刺激が伝わります。1回で伝わらなくても、繰り返すことで伝わり、新たな刺激を受け入れる素地になる。音楽を通じて、日々刻々と変化するものを感じる感覚を得て欲しいです。その感覚が、豊かな里山文化に喜びを感じることに繋がると思います。だからこそ、丹波の色が濃く、魂の色が濃くな

っていきと思いません。音楽を通してみなさんの役に立てるとうれいんです。

歌を通して市の魅力を全国へ

市長 市長としては、何とか市の魅力を全国に発信したい。歌もその一翼を担って欲しいですね。足立さんが、先ほど野望とおっしゃっていたけれど、私の野望は、丹波市の歌を東京オリンピックの年に、紅白歌合戦で歌われるような歌にすることです。

足立 えっ！
市長 東京オリンピックの前年、2019年を丹波市のターゲットイヤイと位置づけています。その年、市内に総額200億円をかけた県立病院が完成します。新病院完成に併せ、市でもたくさんの方の事業を花開かせたいと職員と奮闘しています。右脳・左脳に働きかける、色々なジャンルの事業を取り揃えています。個性豊かな6地域のプロジェクトをつなぎ合わせた丹波市の魅力の発信事業なども計画中です。歌はターゲットイヤイ

の1月、成人式で披露します。歌披露の盛り上がりそのままに、ターゲットイヤイが盛り上がりればと期待をしています。また、もう一つの目玉として取り組んでいる廃校利用でも、音楽に着目した取り組みが行われることを期待しています。
足立 それはいいですね！
市長 本当に楽しみにしています。まずは、歌が色々なところで歌われるとうれしいですね。例えば、小学校の卒業式とか成人式とかね。さらには、合唱グループの

活動などでも歌われるようになり、歌い継がれる。そんな風になればいいと思います。そうした動きが刺激になって、市民の一体感が醸成され、ここからの合併「丹の合併」ができればうれしいです。2人の力をお借りして、頑張りますので、今後ともよろしくお願ひします。
千住・足立 こちらこそよろしくお願ひします。
市長 本日はありがとうございます。



座談会会場や柏原藩陣屋跡を見学、丹波の歴史や文化を紹介。織田信包や田ステ女の話で盛り上がりました。



丹波市の歌制定
今後のスケジュール

市のさらなる一体感の醸成、市民のふるさと意識の高揚および本市のイメージアップを目的に、丹波市の歌を制定します。有識者と公募で選ばれた丹波市の歌制定委員会が、制定と普及・活用について協議して制作を進めます。

平成 29 年

- 7月14日 第1回丹波市の歌制定委員会
- 8月 作曲依頼完了
- 10月4日 特別座談会
- 12月 作曲完了
- 12月～1月 第2回丹波市の歌制定委員会

平成 30 年

- 1月 作詞公募開始
- 7月 作詞公募締め切り
- 8月 作詞公開審査会 春日文化ホール

平成 31 年



1月 成人式で丹波市の歌披露

図総合政策課（氷上庁舎内）
☎ 82 - 0916